

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第88回）に係る面談
2. 日時：令和3年2月10日（水）15時30分～17時10分
3. 場所：原子力規制庁18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、澁谷企画調査官、林田管理官補佐、大辻室長補佐

田上係長、久川係員

福島第一原子力規制事務所

渡部副所長、坂本検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

本社7名、福島第一原子力発電所7名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、次回（第88回）特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）の議題に関し、資料に基づき以下の説明を受けた。

- 建屋滞留水処理等の進捗状況について
- 令和2年度における保安検査指摘事項に係る共通要因分析から抽出された改善事項及び対策案について
- 3号機燃料取り出しの状況について
- ALPS スラリー安定化処理設備の安全設計及びHICの健全性について

○原子力規制庁は上記内容を確認するとともに、以下のとおりコメントを行った。

【建屋滞留水処理等の進捗状況について】

- タービン建屋等の床面露出が完了した建屋については、床面露出状態が降雨時においても維持されるための対策について、今後説明すること。

【令和2年度における保安検査指摘事項に係る共通要因分析から抽出された改善事項及び対策案について】

- 共通要因分析の評価プロセスについて示すこと。
- 共通要因分析によって抽出された要因への対策案について、大がかりな作業になると考えられるが、対策の開始時期や実施するにあたっての体制等について説明を追加すること。

【ALPS スラリー安定化処理設備の安全設計について】

- スラリーの安定化処理を行う設備の閉じ込め機能について、建屋排気口から排出されるダスト濃度の測定及び管理方法、排風が停止した場合の対応等、ダスト管理に係る説明を拡充すること。

- スラリー内に含まれる核種の組成について分析データを示すこと。
- また、原子力規制庁は、建屋内滞留水中の α 核種の除去、ゼオライト土嚢等の安定化処理、ALPS スラリーの安定化処理といった事項の工程表において、着手又は完了時期を 2023 年度以降にしているものについては、その時期をしっかりと示すことを求めた。
- 東京電力から、コメントについて検討の上、検討会に向けて対応が必要なものについては、適切に対応する旨回答があった。

6. 資料

- 建屋滞留水処理等の進捗状況について（案）[東京電力]
- 共通要因分析から抽出された弱みおよび対策案について（案）[東京電力]
- 3号機燃料取り出しの状況（案）[東京電力]
- スラリー安定化処理に向けた設計について（案）[東京電力]
- 福島第一原子力発電所 中期的リスクの低減目標マップ（2020年3月版）を踏まえた検討指示事項に対する工程表[東京電力]
- 東京電力福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップの改定について（令和2年度第56回原子力規制委員会 資料2）[原子力規制庁]